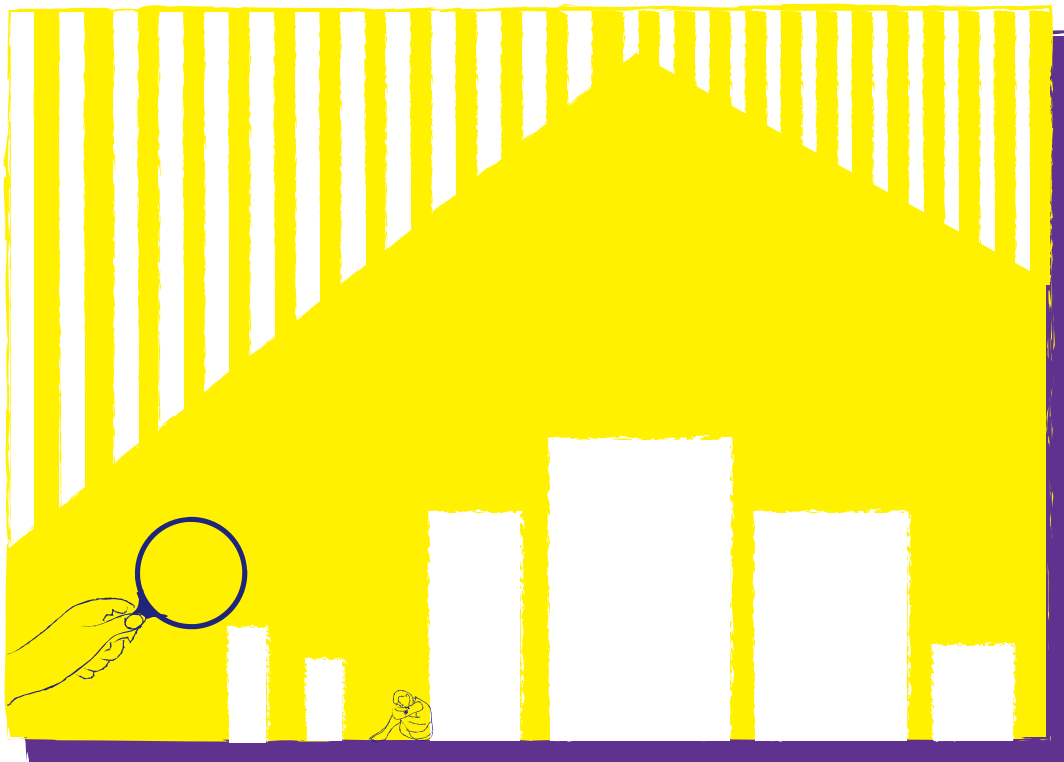


鹿児島県 みんなで創ろう！かごしまの未来形

男女共同参画センター だより

性別にかかわらず 一人ひとりが尊重され 個性と能力が発揮される社会をめざして



特集

ココロで“みる”社会、そして、わたしたちのココロミ
男女共同参画マインドによる一人ひとりの幸福追求へのアプローチ

センター事業紹介

トピックス

6階情報サロンオープン

きらりびと

サポーター's コーナー

相談室から

2017.9 ▲▲

vol.33

ココロで“みる”社会、そして、わたしたちのココロミ 男女共同参画マインドによる一人ひとりの幸福追求へのアプローチ

今年の週間事業は、かごしま女性政策研究会と協働で、男女共同参画の基盤を成す「男女の人権の尊重」（一人ひとりの人権の尊重）の視座から、長引く景気の低迷、非正規雇用の増加、働く世帯の平均所得の減少、相対的貧困の問題等、社会の構造的な問題の影響により生活上の課題や困難を複合的に抱える人が増加する状況について、私たち一人ひとりが、私たちがつくりあげた社会の問題として、しっかり見ようとするをココロミルために実施しました。

基調講演「見ようとしなければ見えない問題を追い続けて」

(7/29)



講師紹介 板垣 淑子さん NHKスペシャルプロデューサー

NHKスペシャル

「ワーキングプア～働いても働いても豊かになれない」(2006年)

「無縁社会～“無縁死”3万2千人の衝撃～」(2010年)

「老人漂流社会“老後破産”の現実」(2014年)

「老人漂流社会 親子共倒れを防げ」(2015年)

など、見えない課題を浮き彫りにして社会にインパクトを与える話題作を次々と制作され、2014年には、第40回放送文化基金賞「個人・グループ部門」を受賞されています。



◆貧困

- 貧困は、明確な定義がないため、自分のことではないと思いがちです。日本国憲法第25条では、この国で暮らす最低限度の生活水準を保障するという規定があり、収入がこの生活水準に満たない場合は収入を補填する形で生活保護を受けられますが、独り暮らしの場合、この生活保護水準は月13万円前後と算出されています。3,000万人の高齢者のうち、600万人が独り暮らしで、その半数、300万人の方が生活保護水準以下で暮らしています。
- この300万人のうち、生活保護受給者は、わずか70万人で、残りの230万人は生活保護水準以下の年収で、そのわずかな収入から医療費や介護費を負担するため、命に関わる出費を節約してしまうケースまで現れ始めているということが分かってきました。

◆見ようとしなければ見えない問題を追い続ける発端

- 見ようとしなければ見えない問題を追求しようと思った発端は、「孤立死が増えている」と実感したことです。
- 2010年に孤立死の件数を調べましたが、データがなかったため、徹底的に取材したところ、孤立死のうち、身元不明や親族が特定できない究極の孤立死だけでも、2010年の1年間で3万2千件にもなることが分かりました。
- そこで、その見えない問題を可視化しようと思いついたのが、「2010年無縁社会」という番組です。家族もおり、仕事もあったごく普通の方が、晩年、配偶者を亡くす、子供が巣立つなどのごくありふれた理由で独り暮らしになった後、体調を崩す、介護が必要になるなどの理由から出かける機会が減り、孤立化し、そして孤立死に至るという方が非常に多いということが分かりました。
- もう一つ、決定的で、大きな要因を占めていたのが、「貧困」ということでした。高齢者は、ほとんどの方が元気なうちは節約して10万円でも十分暮らしていけますが、一旦、医療や介護が必要になると途端に立ち行かなくなる方が非常に多くなります。特に生活支援のサービスを節約したために、人との接点がなかなか持てずに孤立死に至るという方が非常に多いということが分かってきました。その節約せざるを得ないぐらゐの状態の事を「老後破産」と呼んで、取材を続けています。

◆老後破産

- 高齢者の600万人が独り暮らしですが、2,000万人を上回る「高齢者の二人暮らし」や高齢になった親を介護するため同居した子供が介護の長期化により高齢になり、「老老介護」に至ったという形の「親子の二人暮らし」といった予備軍を含めて単身高齢者の問題は非常に深刻だと言わざるを得ないと思います。
- 今の65歳以上は、終身雇用制の恩恵を十分に受けていますが、今後は、非正規労働の割合が増加し、「無年金」や「低年金」の層が増えていくため、「単身高齢者の貧困」や「貧困に起因する孤立」の問題は、誰にとっても人ごとではない問題だと言えると思います。
- 「年金収入減」「介護負担増」をどう受け止め乗り越えていかなければならないかということ、真剣に考えなければいけない時期を迎えているのではないかと実感しています。

◆親子共倒れ

- 独り暮らしで、年金受給額が少ない場合、子供が同居して介護をするという場合が多くなりますが、育児と違い介護は負担が大きくなる。介護をしている側も一緒に歳を重ねていくという2つの大きな問題があります。
- 子供が介護の負担増、体力の低下のために仕事を辞めると、親ひとり食べていくのがやっとだった年金で子供も食べていくことになるため、生活が破綻していくことになり、働くことができるぐらゐの子供と同居している場合は、子供がいれば大丈夫だろうと福祉などの見守り対象からも漏れて、更に見えにくくなっていくケースがほとんどです。最近、新聞の第二社会面でよく見る「介護自殺」「介護心中」「介護殺人」といった痛ましい出来事背後には、こうした経済的に追い詰められた親子の姿があるということが例外なく言えるように思います。

- 「親子共倒れ」のような親子を救うために、「世帯分離」という方法をとる自治体がほとんどですが、最後まで親を自分の手で看取りたいというように強く思っている、つまり親子の愛情が深ければ深いほど、その選択肢は選ばないという中で親子だけで追い詰められていくというケースが多発しています。
- 昔から家族が介護を担うという事に対してコストとして計算するという文化が日本にはなく、家族介護の場合は負担を負ってしまった家族が自己犠牲の形をとってしまうということが結果として起きてしまっています。
- 年金収入だけでは十分に介護を受けられない独り暮らしの高齢者が増えていく中で、再同居して中高年の子供が親を介護する「親子再同居」が更に増えていくということも試算されていますが、今の社会保障制度は介護の負担が増える方向で走り出したばかりであり、深刻化する問題に高齢者自身が自分の老後の対策を講じなければいけないという厳しい状況に今置かれているのではないかと感じています。

◆埼玉県幸手市の事例

こうした状況に既に立ち向かおうとしている埼玉県の幸手市の動きの紹介がありました。

<幸せ手伝い隊>

- 有償のボランティア組織で、地域の中でボランティアを募り、介護サービスを安く市民に提供しようというもの。ボランティアを受ける側は350円支払い、ボランティアをする側は運営費100円を除いて250円を地域通貨で受け取る仕組み。
- 掃除、洗濯、食事作りなどのサービスを安い市民ボランティアに置き換えて負担を減らすことにより、利用回数を増やすことができれば、独り暮らしの方なども安心して暮らすことができるだろうとして始まる。
- ボランティア登録者の多くは、75歳以上で、サービスを提供する側だけでなく、利用する側にもなることができる。
- 独り暮らしの高齢者が持っている可能性やポテンシャルを必要として、借りの仕組みを地域の実情に合わせて作っていくことが、地域力を高め、孤立や貧困に打ち勝てる地域を作っていくという意味でも必要だということを考えさせられる事例。

<公園での朝のラジオ体操>

- 公園にラジオを持ったお年寄り達が自然発生的に集まり、ラジオ体操をすることにより、「生きている」と実感できるようなゆるやかな繋がりを知恵と工夫でお金もかけずに創出している事例
- 「誰かが動けば地域が変わる」ということを実証

◆最後に

- 孤立化は更に、深刻になっていく可能性があり、今、身近に広がっているということを私たちはしっかりと認識して、自分たちができることをしていかなければいけないだろうと思っています。
- 私にできることは、地域を変えようとして、動いている方々の活動をお伝えし、知恵と工夫によってこの事態を乗り越えるお手伝いを少しでもするという事です。
- 実態については番組を通じて情報をお伝えしていくので、厳しい事態「見ようとしなければ見えない現実」から目をそらす事なく、その現実を直視して、受け止めた上で動き出す、そんなきっかけにさせていただければと感じています。

◆参加者の感想

- 老老介護に直面しています。見えない問題を見ようとするのがどれだけ大切か身にしました。
- 今から先に役立つキーワードを教えてくださいました。お話を自分のこととして捉えて多彩な考えを心がけていきたいと考えました。

2017 鹿児島県男女共同参画週間事業(7/25~7/31)

7/25~31は、県の男女共同参画推進条例で定められた「男女共同参画週間」です。女子差別撤廃条約が日本で効力を発した1985年7月25日を記念して、この日から1週間を本県独自に定め、県民の皆様へ男女共同参画について理解と関心を深めていただくため、民間団体との協働により様々なイベントを行っています。

“みる”をココロミル ワークショップ ファシリテーター:高崎恵さん(ワークショップデザイナー)

(7/29)



板垣さんの基調講演を聴いて、気づいたことや考えたことを、グループで話し、共有するワークショップを行いました。

経済的な貧困と共に大きな課題である「関わり」の貧困へのアプローチとして、参加者の皆さんが、一人ひとりが地域に暮らしている多様な立場にある人に想いを深めてみることの大切さを実感することを目的に実施しました。

※今日初めて会った人達が一人ひとりの気づきや想いを尊重できる話し合いができるよう、自分も他者も大切にできるアサーティブ・コミュニケーションの代表的な方法である1メッセージによる対話を学びながら、共有しました。

年代も暮らす地域も多様な人たちが話すことで、様々な想いを知ることができ、また、様々な人がいることで、多様な力を重ねていければ地域の課題の解決に向かえること等、多くのグループが厳しい現実の共有を通

して、未来に向けて自分たちに何ができるか話をしていました。

最後に、共に話し合ったグループのメンバー一人ひとりと感謝のコメントカードを交換し誰かに認められること、感謝されることの喜びを実感し終了しました。

参加された方からは、「講演のあと、こうして他の人と語り合えたことがすごく良かったです。」「異なる世代の人と関われた」「お互いに学び合う対話ができ」「互いに一言メッセージを交換できた事が何よりうれしいことでした」という感想が寄せられました。

ワークショップ for 小学生 “みえない”けれど “あるんだよ”ファシリテーター:高崎恵さんと男女共同参画ジュニアリーダー

(7/30)



企画会議

男女共同参画ジュニアリーダーが誕生して4年目の今年も、企画から運営までのあらゆる場面でジュニアリーダーが大活躍してくれました。

子どもたちは、「みえないけれど、あるんだよ」「みえないけれど大切だよ」という所から考えて、初めて出会う人同士、初めての場所で、足りないものは貸し借りしたり、自分のアイデア、人のアイデアを共有したりしながら、最初は頭の中にあって見えなかったものを形にして世界に一つだけの絵本を作成しました。

その後、保護者の方も招待して、自分の作品について発表したり、気になる作品について質問する「ぐるぐる展覧会」を開催しました。一人ひとり個性のある作品ができ、子どもたちは、性別や年齢に関わりなく、一人ひとり素敵なところがあつたことを体感したワークショップとなりました。



ワークショップ



高崎恵さんと男女共同参画ジュニアリーダー

ミニ講話 「子育てと男女共同参画」

講師:たもつ ゆかり さん



今年は、ワークショップを見学するための学びとして、保護者向けに、今回のワークショップの理念となっている男女共同参画についてのミニ講話を行いました。

展示

(7/25~31)

ココロで “みる” をココロミル

“制度のハザマ” から社会の制度について考えてみる

7月25日から31日の期間中に、県民交流センター2階展示ロビーと県庁18階ロビーで、パネル展示を行いました。

「妊娠」「子育て」「離婚」「介護」「病気や障がい」「若い世代の現状」について、現状とそれを支える制度を取り上げました。既に制度があるにも関わらず、利用していない人がいること、制度のハザマに置き去りにされている課題があること、自分がいつかそのハザマに置き去りにされないとは限らない等、自分事として考えるきっかけになったことと思います。

なお、今回作成したパネルについては、市町村等に貸出しを行っています。希望される方は、当センターまで御連絡ください。



パネル展

(7/1~13)

私たちが知っておきたい“11”の数字

株式会社丸屋本社の御協力をいただき、マルヤガーデンズにおいて、男女共同参画週間事業に向けたパネル展を行いました。事業に関連したパネル展は、商業施設で初めての開催で、昨年度の週間事業で作成した「男女共同参画の視点でみる 2025 年問題」を使用し、“男女共同参画について知るきっかけ”を創り出すパネル展になりました。



丸屋本社の発案で、パネルを見ていただくだけでなく、“自分で考えたり、ほかの人に教えてあげたりする(きっかけの輪)”をつくるツールとして、カードをご用意いただきました。

2017年度センター事業のご紹介

★印は、民間団体との協働事業です。

上半期実施事業から

県民の意識啓発・人材の育成

男女共同参画基礎講座

(6/10、6/17、6/24、7/1)

男女共同参画について学びたい方のために、毎年本講座を開催しています。今年も110名の申込みがあり、延べ409名の参加がありました。たもつゆかりさん(オフィスピュア代表、県男女共同参画審議会副会長)、高崎恵さん(オフィスピュア所属「ワークショップデザイナー」)を講師に、男女共同参画を基礎から学ぶとともにワークショップで体感しました。第4回のオプションプログラムでは薩摩川内市女性チャレンジ委員会の犬井美香さんに、地域に根ざした活動の報告をしていただきました。初めての方も、気兼ねなく参加できる講座です。



女性に対する暴力の防止・被害者支援

相談業務研修会

(6/9)

日本フェミニストカウンセラー協会代表理事で、大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)カウンセラーの川喜田好恵さんを迎え、「ジェンダー視点からの相談対応について」と題して講演いただきました。川喜田さんからは、被害を受けた女性の約4割はどこにも相談していない等、DVやデートDVの実態や現在の課題について詳しくお話しいただきました。講演の後はDVD視聴も交えながら、参加者が具体的に考えていくグループワークもあり、とても貴重な助言をいただきました。



参加者からはDVの被害者の実情や支援員の心構えなど基本的なことが聞けた、グループワークを通していろいろな考え方が分かる参考になった、相談を受ける際に大切にすることを学べた等の感想をいただき、大変充実した研修会となりました。

下半期実施事業

(場所の記載がない行事の会場は、かごしま県民交流センターです。)

県民の意識啓発・人材の育成

かごしま県民交流センター以外でも毎年2地域で男女共同参画基礎講座の出前講座を開催しています。

男女共同参画基礎講座 in 出水

期 日 9月30日(土)、10月7日(土)

場 所 出水市中央公民館 小ホール、出水市役所 多目的ホール

男女共同参画基礎講座 in 奄美

期 日 10月21日(土)、10月22日(日)

場 所 大島支庁 4階大会議室

女性の活躍推進に向けた支援

仕事と生活の両立に向けたセミナー

子育て、介護、ダブルケアなど仕事と生活の両立への不安を抱えている方々が、両立への不安を解消できるよう意識の改革を図るセミナーを実施します。

日 時 11月3日(金・祝)

★キャリアデザインセミナー

女性を対象に将来のキャリアデザインを描き、意欲を持って働き続けられるよう、キャリアアップ及びネットワークづくりの支援を行うセミナーを実施します。

実施期間 1月～2月

男性への意識啓発

男性対象のセミナーを2月実施予定です。講師・内容等決まり次第、ホームページ等でご案内します。お楽しみに!

若年層への意識啓発

学校への男女共同参画お届けセミナー (6月～12月)

高校、養護学校の生徒、職員、保護者を対象に、男女共同参画への理解を深め、学校で男女共同参画を推進していただくために講師を派遣します。今年度も6月からスタートしており、15校で実施します。

〈今年度実施校〉鶴丸高校、加世田常潤高校、垂水高校、武岡台養護学校、桜丘養護学校、出水養護学校、川内高校、加世田高校、南大隅高校、沖永良部高校、串木野高校、穎娃高校、指宿商業高校、串良商業高校、伊佐農林高校



子どもたちの男女共同参画学びの広場推進事業 (6月～1月)

小・中学校を対象にした本事業は、子どもたちの自己肯定感・自己尊重観を育むとともに、学校・家庭・地域が連携し地域全体の人権意識や男女平等意識の醸成を図ることを目的に、児童生徒対象のワークショップ、教職員セミナー、保護者・地域対象のワークショップの3つを一体で実施します。今年度も6月からスタートしており、11校で実施します。

〈今年度実施校〉桜山小、穎娃小、川辺中、羽月小、大隅中、香月小、池田小(錦江町)、増田小、緑が丘小、田検小、秋徳小・中



若年層への意識啓発

★高校生のためのピアサポーター養成講座

悩みや問題を抱える年代をサポートできる高校生を養成する講座を開催します。ワークショップで楽しく学ぶことができます。学校を通じて、また、ホームページで11月頃に案内予定ですので、高校生の皆さんの多くの参加をお待ちしています。

日 時 12月17日(日) 10:00～16:00

対 象 県内高校生

実施団体 かごしまピア研究会(鹿児島大学医学部保健学科サークル「ピア☆びあ☆かごしま」(発足13年)の学生メンバーとそのOB・OG、そしてピアカウンセラー養成者で構成されている研究会)

★デートDV防止セミナー

20～30歳代の青年を中心に、「自分らしく、その人らしく生きる」ことのできるパートナーシップについて共に考えます。ホームページ等で12月頃に案内予定です。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

日 時 2月24日(土) 13:30～15:00

場 所 曾於市中央公民館 会議室

対 象 県内20～30歳代の方

実施団体 かごしまピア研究会(「ピア☆びあ☆かごしま」OB・OG、そしてピアカウンセラー養成者を中心に実施予定)

女性に対する暴力の防止・被害者支援

「11/12～11/25女性に対する暴力をなくす運動」期間中に様々な取組を実施します。詳しくは、裏面をご覧ください。